



## 日本と外国の良いところを授業に

子どもに寄り添い、厳しくもやささにあふれた小学校時の恩師が理想の教師像だ。2023年10月、県の青少年交流事業で海外研修に参加した。個性を大切にアメリカの授業。自分の考えを堂々と発言する同世代や、多様性に寛容で包容力があるホストファミリーとの生活を通じて「英語教師になりたい」。その思いは強くなった。

語学力はまだまだ。でも英語に親しみを持つことは譲れ

## 理想の英語教師を目指す



鳥取東高校 (2年) <sup>いしい</sup> <sup>ふき</sup> 石井 風葵 さん

小学生のときの恩師に感銘を受け、教師を志した。高校生になって参加した海外研修でその夢は明確な目標に。異文化に触れ「英語という言語を通じて海外のよさと日本のよいところを教えられる先生になりたい」

ない。だから洋楽や洋画は格好の教材だ。在県外国人の日本語講習にもボランティアで参加。気がつけばそこのやりとりがコミュニケーション力向上に役立っていた。「どの国の文化も素晴らしい。それぞれのよさを取り入れた授業ができれば」。モットーは初志貫徹。苦しい時もポジティブマインドでやり通す。幼稚園のときから始めた水泳と同じく、コツコツと自分スタイルで夢を追いかける。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 水質浄化の課題研究に奮闘

鳥取西高校 (2年) <sup>みや</sup> <sup>あんな</sup> 宮 杏菜 さん



水の浄化をテーマに、課題研究に奮闘する。さらに、海外研修の経験を通して「世界の人々の助けになる仕事に就きたい」と夢を描く。



## ラオスで出会った人々に感銘

高校の研修で岩美町の荒金鉱山を訪れたのを契機に、廃棄される脱水殿物の有効活用に着目。水を浄化する働きのある「ハイドロボール」を脱水殿物と粘土、水で作成、混ぜる割合によって変化する吸水率などを調べている。ハイドロボールで浄化した水で生き物や植物を育て、水を循環させる「アクアポニックス」を作るのが目標だ。

海外研修ではラオスを訪問。課題研究に生かそうと、浄

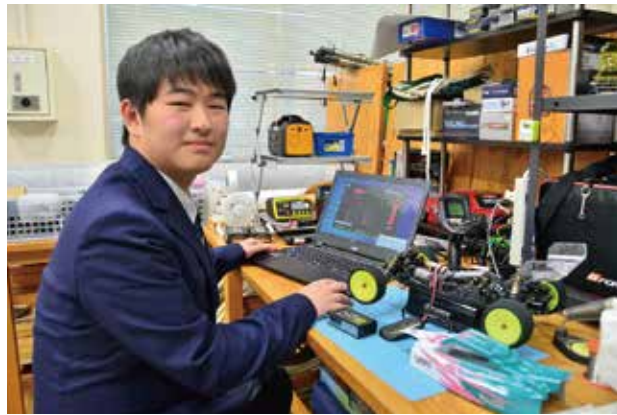
水場を見学したり、安全な水を届ける取り組みについて学んだりした。そこで、世界を舞台に社会をより良くしようと働く人々の姿に感銘を受けた。幼い頃から習うピアノにも力を入れる。高校では、ソロに加えて以前から興味があった連弾でもコンクールに挑戦。全国大会での演奏も実現した。課題研究にピアノに、忙しくも充実した日々。「経験を積み、夢や目標をしっかり定めたい」と目を輝かす。

## 輝く高校生・高専生インタビュー

高校生・高専生が夢中になっていることは勉強、部活動、趣味など、人それぞれ異なる。しかし、自ら立てた夢や目標に向かって努力する姿は、全ての人に共通している。壁にぶち当たることがあるかもしれない。思い通りにいかないことがあるかもしれない。でも、簡単に手に入らないから、追い求める価値がある。自分の可能性を信じて、鳥取で輝く高校生・高専生を紹介する。







## RCカーの全日本選手権出場

科学技術研究部に所属し、幼い頃から好きなRCカーやロボット製作に情熱を注ぐ。RCカーの全日本選手権「JMCA全日本電動オフロードカーストック選手権」に2年連続出場し、次大会の出場も目指して活動中。子どもたちにRCカーの組み立て方や楽しみ方を教えるなど、地域のイベントでもボランティアとして活躍している。

学習面でも努力を重ね、1年生にして第2種電気工事士

## 専門分野生かし 社会貢献したい



鳥取湖陵高校 (2年) 清水 将貴さん

電気や環境に関する国家資格取得や、RC(無線操縦)カーの全日本選手権に向けて研さんを積む日々。将来の目標は、電気やエネルギーに関する技術者となり、幅広い視野で社会貢献することだ。

を取得。第3種電気主任技術者や水質関係第4種公害防止管理者の資格取得も目指す。得意分野を生かした環境保全について考え、科学の全国コンクールに挑戦。RCカーの経験から電気自動車のバッテリーのエネルギー効率を考察し、佳作を受賞した。「今学んでいることをもっと深めたい」と、大学進学を希望。「電気やエネルギーのインフラ関係の仕事に就き、社会貢献したい」と力を込める。



## 今年こそは夢の日本一へ

スポGOMIは制限時間内に規定されたエリアのごみを拾い、その質と量をポイント換算して競う。サッカー部に所属する3人は、部が社会貢献活動として取り組む鳥取砂丘の清掃に参加したことをきっかけにごみ拾いへの関心を高め、昨年7月に開催された県大会に出場した。

23チームが出場した県大会で、3人は部活動で培ったチームワークを生かして、制限時間60分で6.595\*のごみ

## スポGOMIで 鳥取県優勝

鳥取商業高校

(2年) 奥田 宙さん  
(2年) 松本 直也さん  
(2年) 竜門 俊太さん

ごみ拾いにスポーツの要素を加えた「スポGOMI」の全国大会に初出場した。3人は全国40位で、特別賞「LOVE BLUE賞」を受賞。今年は日本一を目指す。

を集めて914.8ポイントを獲得。2位に353ポイントの大差をつけて全国大会の出場権を得た。

勝因を「砂丘清掃の経験から、生い茂った草の中など人目に付かない所にごみが多いと考え、そこを集中的に探した」と語る3人。一方、「全国大会はごみ拾いがしやすい道具を自作していなかったのが敗因」と、今年の大会に向けてすでに改善策を練っている。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## サクソ演奏に 情熱注ぐ

青谷高校 (2年) 廣澤 莉乃さん



吹奏楽部に所属し、情感豊かな音色を奏でるサクソを担当。中学1年のとき、初めてこの楽器を手にしてから5年。今では表現の幅も広がり、演奏する姿も板についてきた。

## 地域イベントにも積極参加

3年生が引退した昨年夏以降、同じくサクソ担当の同級生と2人だけになったが、サクソへの熱が冷めることはない。「楽しいから続けられる。卒業しても吹いていた」。そんな思いを胸に週6日、音楽室に足を運ぶ。

発表機会は逃さない。依頼があれば積極的に参加がモットー。昨秋は、顧問教諭のフルートを交えた木管3重奏などで各種地元イベントに出演し、地域の盛り上げに貢



献。他校の吹奏楽部員と合同で、プロのバイオリン奏者や指揮者と共演する機会を得るなど貴重な経験をした。

「個人的にはバラードの演奏もうまくなりたい」とほほ笑みながら、「みんなで一つの作品を仕上げる吹奏楽のだいご味を今年も味わいたい」と目標を掲げる。4月以降、一人でも多くの新入部員を募り、吹奏楽コンクールで躍進したい考えだ。

## 自転車整備の勉強に励む

鳥取工業高校 (2年) 山根 隆俊さん



大好きな自転車に関わる仕事に就くことを目指して、整備の仕方や部品交換などの勉強に励む。将来は地域の人から愛される自転車店を営むことを夢見ている。

## 自転車のイベントを開きたい

小学生の頃から、車や自転車など乗り物が好きだった。これらの修理や整備の専門的な知識を学ぶため、中学生のときに同校の機械科への進学を決め、現在は技術の習得に努める。

自転車のブレーキや変速機の調整、劣化した部品の交換はお手のもの。鳥取市内の自転車店を訪れたり、インターネットで調べたりして、より高い技術を身に付けるため



の努力もしている。

趣味は休日のサイクリング。ロードバイクで地元の鳥取市国府町や鳥取砂丘のほか、湯梨浜町や兵庫県にも遠出し、美しい景色を見て楽しむ。

卒業後は、自転車の製造や整備を学ぶ専門学校に進学を希望。「販売や整備に関わった自転車が、鳥取を駆け抜けるイベントを開催したい」と将来の希望を心に描く。





## 食材に「藍」を込めて

智頭農林高校 (2年) <sup>あおたき</sup> 青滝 <sup>れな</sup> 怜奈さん

古くから染料として使われている藍を食材に取り入れ、見た目も青くきれいで、おいしい菓子パンやクッキー、お茶など「藍フード」の研究にいそむ。

### 「藍フード」を研究 おいしさ発信

授業などで暮らしに溶け込む藍染めとふれあう中、抗酸化作用やコレステロールの低下が期待できる藍の効能にも着目。次第に「食べる藍」の魅力に取りつかれた。

徳島大が開発した水溶性の藍の粉末を譲り受けるなど協力も得て研究に取り組んだ。試行錯誤の末、本年度完成したねじりパン、ちぎりパンは自信作の一つになった。その粉末を生地に練り込むことで、パンを青くすることに成

功。藍本来のほろ苦いうま味も宿り、振る舞った秋の学校祭でも好評だった。葉を揚げて食べたり、パスタのクリームソースにしてみたり、藍の味を生かせる相性の良い食材、食し方を探し求める日々。「粉末を麺に練り込んでもおいしいと思う。子どもたちにも喜ばれ、幅広い世代に興味を持ってもらえるよう、藍フードを発信していきたい」と藍の可能性に思いをはせる。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 全国初出場で2位 鍛錬重ね

鳥取敬愛高校 (1年) <sup>ありもと</sup> 有本 <sup>まほ</sup> 雅歩さん



◀動画はコチラ

一点に向ける集中力が難しくもあり醍醐味でもあるビームピストル。初出場した全日本高校生ピストル射撃競技選手権大会は準優勝と大健闘した。次回の同大会や国体、新人戦でも上位を目指して日々鍛錬を重ねる。



### 2種目全国上位を目指す

息を止めて10秒先の的に狙いを定める。45分間立ったまま60発を打つ試合は、姿勢を維持する筋力と集中力、そして忍耐力が必要とされる。「水泳や器械体操の経験で培った体幹の強さが自分の強み。指の位置が数ミリ違うだけで結果が変わる」

ライフル射撃競技のエアーライフルをしていた姉の姿を見て、小学6年生から競技を始めた。しかし、中学時代は新型コロナの影響で試合がほとんどなく、本格的な練習や試合は高校

入学後だ。2023年は全日本高校生ピストル射撃競技選手権大会で結果を出したものの、「国体は緊張して思うように点が出せずに9位という悔しい結果となった。次は入賞を狙いたい」

筋力トレーニングと試合形式の練習を毎日欠かさない。大学進学を見据え、個人でエアーピストルを所持できるように準備を進めている。2年生ではビームピストルとエアーピストルの2種目で全国上位を狙う。



## ウエイトリフティングに熱中

岩美高校 (2年) <sup>やまもと</sup> 山本 <sup>たくま</sup> 拓磨さん



高校に入って始めたウエイトリフティング(重量挙げ)。「強くなりたい」一心で、バーベルを持ち上げる日々。主戦場の81kg級で、インターハイ出場に必要な標準記録突破に闘志を燃やす。

### インターハイ標準記録突破に自信

標準記録はスナッチ、ジャークの2種目で持ち上げた重量合計が183kg以上。予選を兼ねた5月の県総体でクリアしないと、集大成として目標に掲げるインターハイに出場できない。昨年11月時点の自己記録は178kg。「あと5kg」まで迫った。

自信はある。痛めた腰に負担がかからないようスクワット、プレスなどの補強運動や体幹を鍛えるメニューを多く

取り入れながら週6日、1日2時間程度の練習を欠かさない。同じ練習を苦にせず繰り返し継続してきたこと、それが自信の裏付けになる。ウエイトリフティング部の主将を務める。「練習は嘘をつかない。積み重ねた努力は必ず実を結ぶことを後輩たちに示すことができれば」とリーダーの自覚を示した。記録を追い続けている今が楽しい。まさにウエイトリフティングを謳歌している。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 「伝える力」磨きかける

八頭高校 (2年) <sup>まつもと</sup> 松本 <sup>ゆな</sup> 悠那さん



キリッとした表情から発する張りのある声が響き渡る。「ただ読むのではなく、声のスピードや強弱に気を配り、聞き取りやすい話し方を意識」。NHK杯全国高校放送コンテスト(2024年春)に向けて「伝える力」を磨く。

### 目指すは全国放送コンテスト

中学3年のときに八頭高のオープンキャンパスで見た学校紹介映像に魅了された。高校入学後すぐ放送部に入部。映像制作は上級生が担当のため、「朗読」との選択で「アナウンス」を選んだ。取材と制作原稿を読み込む毎日。でも「新しいことに挑戦したい」と思っていた自分にぴったりはまった。

昨年出場したコンテストでは地区大会を突破。初の全国大会では「声の出し方などの技術面だけでなく、記事内容の構



成もまだまだ」と強豪校とのレベルの差を痛感した。リベンジを誓い、部長を務めながら校内行事の司会はもちろん、取材活動、発声練習など準備を整える。高校最後となる今年の大大会では、番組制作とアナウンス両部門で全国切符獲得が目標。「アナウンスは校内一番の自信がある。とことん向き合えるものが見つかったのがうれしい」。熱い思いを胸に、マイクの前では冷静に「伝える」ことに専念する。





## バトンに 思いを託して

倉吉東高校 (2年) <sup>まえた えま</sup>前田 恵舞さん



音楽に乗せてバトンを操るバトントワリングに魅せられ、4歳から教室に通う。「バトンと体の動きで気持ちを表現するのは楽しい」。バトンに思いを込めて舞い続ける。

### 多くの人に魅力を広めたい

バトンを回転させたり高く投げたり、巧みな技術に多彩なボディワークを組み合わせて舞う教室の先輩たちの姿は美しく、幼い頃から強く憧れた。「自分も上手になりたい」と練習を積み重ね、昨年は英国で開かれた世界大会に教室のメンバーとともに日本代表として出場。バトン2本を使うトゥーバトン女子ジュニア部門で3位、ペアジュニアの部門で4位という快挙を成し遂げ「緊張したけど楽し

めた。とても良い経験になった」と笑顔で振り返る。鳥取県での競技人口はまだ少なく、競技の詳細についても詳しく知られていない。「自分や仲間が活躍することで、少しでも興味を持ってもらえればうれしい。自分が演技していて楽しいように、見ている人にも感動を与えられるバトントワラーになりたい」。母親お手製の衣装で華麗な舞に磨きをかける。



## 目標のオリンピックへ 駆け上がる

鳥取城北高校 (2年) <sup>かわかみ ふみか</sup>河上 史佳さん



高さ15mの壁を「どれだけ速く登れたか」を競う。高速バトルがゆえに絶対優位はなく、勝負は最後まで分からない。国際大会を経験し、目標はオリンピック。飛躍を誓い大舞台へのルートを駆け上がる。

### 表彰台からの景色が見たい

6歳年上の兄の影響で5歳から始めたスポーツクライミング。中学生のときに実施された若手育成プログラムをきっかけに「スピード」種目を選んだ。世界共通の壁で2人の選手がタイムを競うスプリント種目。「自分の成長が目に見えて分かる。少しのミスで順位が入れ替わるのでスリルがあって面白い」。パリ五輪の種目強化選手に選ばれた2023年シーズンは、ワールドカップなどで世界を転戦。トップクラ

イマーが集う大会で刺激を受け「強い選手のスタイルを参考に、もっと技術を磨いていきたい」と意識を高める。海外遠征が多い中でも、学業と両立。「勉強も競技もどちらも負けたくない」。自他共に認める負けず嫌いだ。「世界一速い選手になって、五輪の表彰台からの景色を見たい」。ベストなパフォーマンスができるように「常に全力」を心がけ「世界の頂」を目指す。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 自分たちでつくる 生徒会

倉吉西高校 (2年) <sup>はないけ いくみ</sup>花池 郁美さん



「自分たちの手で学校生活を充実させていきたい」。そんな思いから昨年10月、生徒会の後期改選で会長に立候補。リーダーとして生徒たちの要望実現のため奮闘する。



### 型にはまらず新しいことに挑戦

1年生の後期で生徒会副会長を経験。「それまで生徒会への関心はあまりなかったけど、1年生でも執行部に加わることが分かり、やってみようと思った」。持ち前のチャレンジ精神で生徒会に飛び込んだ。

校内に設けた意見箱には生徒たちからさまざまな声が届く。中でもコロナ禍で中止となっていた校内でのパン販売は多くの生徒から要望があった。前会長らとともに購買

再開に向けて教員らにかけ合い、条件をすり合わせながら来校してもらえる業者を模索。再販にこぎ着けることができた。

「生徒会は新しいことに挑戦できる場所。生徒の声に耳を傾けて実現への方法を探り、目標達成に向けて皆で進んでいく楽しさがある」と前を向く。今後も前年踏襲ではなく、型にはまらない生徒会を目指してまい進する。

## 遊びの中で協働性は どう育つ？

青翔開智高校 (2年) <sup>ごとう まなか</sup>後藤 真嘉さん



「意識づけをすることで、小学生は遊びの中で協働性を伸ばすことができるか」をテーマに、自ら発見した社会課題の解決に向けて探究に努める。



### 子どもの遊びをより良く、より楽しく

「探究」が建学の精神の一つである同校で学ぶ中、同じ目的のためにさまざまな人が協力する「協働性」を深く学びたいと思った。幼い頃、サッカーが得意な子も苦手な子もみんなと一緒に楽しく遊ぶための方法を思考錯誤しながら実現できた経験が、原動力になっている。

昨夏には「子どもに対する事前の意識付けがどのように協働性の育成に関わるか」を検証するため、小学生相手に

フィールドワークを実施した。探究の成果をポスターにまとめて中間発表を校内で行い、そこで得たフィードバックを基に、さらなる検証を行った。キャプテンを務めるハンドボール部では、部員と意見を交わして互いの考えを共有することが協働性を高めるという気づきを得た。

「将来は人と接することが好きな性格を生かして、みんなと協力して目標を達成したい」と話す。





### 多彩な取り組みで学校を盛り上げ

「体育コースがあつていろいろなスポーツ活動が盛ん」「駅が近いので利便性がある」。生き生きとした表情で学校の良いところを一生懸命語る姿に愛校心があふれる。「まずは環境整備から」と校内のペットボトル放置をなくすため、各階にごみ箱を設置。学力アップしたい生徒らを対象にした放課後学習会なども提案する。

校内に初めての目安箱も設けた。まだ投書は少ないが



## 新時代を切り開く 生徒会に

鳥取中央育英高校 (2年) 山根 玲奈さん  
(2年) 谷本 祥実さん  
(2年) 小浜 はなさん

生徒数が年々減少している現状を受け、学校の活性化のため自分たちでも何かできないかと模索。生徒会長、副会長として学校の魅力アップにつながる取り組みに奔走。

「学校に対する意見や思いをどんどん届けてもらい、今後の活動の参考にできれば」と生徒らの積極的な意見に期待する。

「頑張っている生徒たちの様子をもっと知ってもらいたい」と始めたInstagramでは、学校行事や話題をピックアップして発信。「生徒会でのさまざまな体験を自分たちの将来にも生かしたい」。挑戦は続く。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 夢はプロバスケット ボール選手

倉吉北高校 (2年) 岩井 咲希さん



小学3年のとき、ミニバスのチームに誘われたのがバスケットボールとの出会い。そこからすっかりはまり、小中高とバスケー筋。「好きだからうまくなりたい。それが自分の原動力」

### チームをまとめながら自身も成長

女子バスケットボール部のキャプテンとしてチームをまとめる。「どう得点を上げていくか、メンバーで戦略を立てて挑むのがチームスポーツの面白さ。自分で得点を入れるとうれしさはさらに倍増」

練習中、進んで声を出しチームを盛り上げることはもちろん、自身のプレー向上にも努める。得意とするスピード感あるドライブやパスのアシストに磨きをかけ「チームの主



となるポイントゲッターになりたい」と力を込める。

昨年のウインターカップ県予選では3位と悔しい結果に終わったが、「チーム全員のシュート率を上げることと、長時間の試合に耐えられる下半身の強化が必要」と冷静に分析。次の試合に向けトレーニングに余念がない。

夢はプロバスケット選手。「全試合でやりきったと思えるプレーができるよう、自信を付けて将来につなげていきたい」



### 牛のプロフェッショナル目指して

和牛の畜産農家だった祖父の家に小さい頃からよく遊びに行っていた。餌やりや牛舎の掃除など、牛の世話は楽しい思い出ばかり。「その頃から将来の夢は牛飼いだった」

学校では寮生活。農場当番の日は明け方午前4時半には起きて動物たちの世話をする。「大変だけど、みんなかわいいので苦にはならない」と屈託なく笑う。

昨年秋、熊本県で開催されたFFJ全国大会家畜審査競技

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 仲間とともに 高め合い成長

倉吉総合産業高校 (2年) 長谷川 莉来さん



幼少期、父親の勧めで始めた少年野球がきっかけで野球好きに。高校で入部した女子ソフトボール部で1年から試合実績を積み、現在、キャプテンとして部のまとめ役を担う。

### 課題に立ち向かい、経験を生かす

部員は1、2年合わせて9人。「ぎりぎり試合に出られる人数。少ないけどチームワークは最高。笑顔が絶えない活気あるチーム」と太鼓判を押す。

本年度の新人戦では1回戦を突破したものの、2回戦で敗退。敗因の一つとしてオンオフの切り替えを挙げ「仲間だからこそ互いのウイークポイントを言い合え、厳しく高め合える関係性を築くことが課題」と力を込める。



中国大会出場がかかった春の鳥取県予選突破が直近の目標。自身も含め、部員全体が弱点とする体幹や足の速さを強化できるよう、日々のトレーニングにも熱がこもる。

「自分の力だけでは勝てない、周りを見ることが大切な集団スポーツ。普段の学校生活や将来にも役立つことはたくさんある。経験を生かしていきたい」と目を輝かせる。

## 夢は祖父のような 酪農家

倉吉農業高校 (2年) 廣澤 善信さん



「牛の純粋で自由なところが好き」。学校の牧場で飼育する牛たちに優しいまなざしを向ける。秋の日本学校農業クラブ全国大会家畜審査競技会出場に向け、畜産への学びを深める。

▲動画はコチラ

会・肉用牛の部に県内高校の代表生徒として出場。鳥取県立農業高等学校の指導協力を得て体格や毛の艶などの目利きを磨き挑んだものの、惜しくも最優秀賞を逃した。

目下の目標は今年の秋、岩手県で開かれる同競技会「乳用牛の部」への県代表出場。「乳牛の知識はまだ浅いので、見極め方についてもっと勉強したい。まずは代表になって、今度は最優秀賞を目指したい」。牛への愛は深まるばかりだ。





## 演劇の面白さ 伝えたい



米子西高校 (2年) <sup>おこ</sup>尾古 ひよりさん

演劇を通じて、自分とは全く違う役を演じる  
ことの面白さや難しさを学んだ。自分の殻を破  
り、より深い表現へ。それは人としての可能性  
を広げることにもつながっている。

### 見る人の心を動かす表現を

小中学校時代に演じることに興味を持ち、演劇部に入部した。部長として大切にしているのは「みんなの笑顔が絶えない部に」。部員全員で楽しく真剣に演劇と向き合っている。部の目標は2023年に続き、強豪校が集う鳥取県西部地区高校演劇祭で最優秀賞を獲得し、県大会に出場すること。日々の活動では柔軟や発声などの基礎練習、せりふや動きの稽古に励む。

1年生の頃は「せりふを言っているだけ」だったが、「相手のせりふをよく聞く」という先輩のアドバイスを実践し、自分の殻を破って役になり切ることで、演技力だけでなく、対話力やコミュニケーション力も高まったと感じる。

「演劇の魅力は、動きや喜怒哀楽の感情表現で、見る人の心を動かせること。自分も頼れる先輩になれるよう成長し、後輩にその面白さを伝えたい」と、表現を磨く。



## 囲碁で集中力と 判断力向上



湯梨浜学園高校 (1年) <sup>よねだ</sup><sup>ありさ</sup>米田 有理沙さん

静寂な教室の中、碁石を打つ音だけが響く。「決まった時間内で自分の陣地をどれだけ広げられるか。考える力を養うのに最適」と囲碁の魅力について語る。

### 身に付けた力を将来の糧に

同校に通っていた姉二人が囲碁部に入っていたことで興味を持った。「囲碁といえば、おじさんが気難しい顔をして碁盤をにらんでいるイメージ。姉たちがどういうところにおもしろさを感じたのか、とても興味が湧いた」

いざ習ってみるとその魅力にはまった。「ルールも分かりやすく、相手に攻め込まれないように、どう地盤を作り、けん制していくか、考えを巡らせる作業も楽しい」と目を輝か

せる。以来、先生や部員らとの打ち合いや専門書の熟読で知識や技術を習得する毎日。目標は初段の獲得だ。

「苦手だった一つのことを集中する力も身に付いてきた」とその効果を実感。「将来、大学進学や就職の際には、囲碁で身に付けた集中力や判断力を生かしたい」。力強く前を見据える。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 語学力磨き グローバルな人に

米子高校 (2年) <sup>ながき</sup>長木 さくらさん



中学生の頃から語学に興味を持ち、日常的に海外の映画を見たり、ラジオを聞いたりして楽しみながら、言語を習得してきた。資格やコンテストにも挑戦することで語学力を磨く。

### 学びを生かした喜び味わう

中1のとき、海外映画の中の英語を聞き取れた喜びから、語学への興味が広がった。その国の音楽などに親しみながら、韓国語やスペイン語を独学で習得。偶然、町で困っている外国人観光客に出会い、学んだ外国語を生かして助けることができた感動は今も忘れられない。

高校では、選択科目で中国語も履修。県内高校生向けオンライン講座・グローバルリーダーズキャンパス (GLC)



を受講したり、英検準1級や中国語のスピーチコンテストに挑戦したりする中で、一日の大半を語学に充てる。「自分が好きなことをやっているだけ」と充実の表情だ。

昨年10月、「鳥取県・バーモント州青少年交流事業」に選ばれ、2週間、アメリカでのホームステイを体験。日米の文化や考え方の違いに触れ、視野も広がった。「語学力を生かしグローバルに働きたい」と将来を見据える。

## スキーを通じ 人として成長

米子東高校 (2年) <sup>いざわ</sup><sup>そら</sup>伊澤 想良さん



スキーを始めたのは4歳の頃。アルペンスキーの「自然と一体になる楽しさ」にひかれ、理想の滑りを追求してきた。昨季のけがを経て再起へ。来季の全国優勝を目指し、進化を続ける。

### 地元の素晴らしさを次世代に

子どもの頃から地元の大会では常に上位だった。より広い世界を知ったのは、小学5年生で出場したジュニアオリンピックカップ。尊敬するコーチや友人にも出会い、視野が広がった。「スキーを究めることは、人を究めること」。競技経験を積む中で、そんな感覚が育った。

2023年の中国高校選手権で優勝後、全国高校総体で負傷。スキーから離れる日々が続く中、2週間のインド留



学で、貧困をテーマにしたソーシャルビジネスについて学んだ。周囲への感謝は常に持ち続けてきたが、自らの恵まれた環境を再認識し、「自分に何ができるだろう」という問いが生まれた。幼い頃から体感してきた地元の自然の素晴らしさ、人の温かさを大切にしたいという思いも強い。「子どもたちが自然の中でのびのびと活動できる場を作りたい」と夢は広がる。





## 強豪校で 技と心を磨く

境高校 (2年) 奥井 翔生 さん



恵まれた体格を生かしたプレーが特徴のハンドボール部キャプテン。日々の練習に加え、大きな声のあいさつやコミュニケーションを大切に人間性を高め、試合に臨む。

### 応援してもらえ選手を目指す

プロハンドボールの試合に魅了され、小学1年からハンドボールに夢中。高校では1年終盤の全国選抜大会の中国予選で、試合の残り1分でシュートを外す。「試合に負けたのがとても悔しかった」と、それ以降、シュートの自主練習を継続している。身長180<sup>cm</sup>、体重105<sup>kg</sup>の恵まれた体格をフルに生かしたプレーが特徴で、強豪校を目指し入学した境高でキャプテンに就任。「とてもうれしかった」と練

習の励みになっている。

目標にしているプロの選手が、誰に対しても親切に接している姿にあこがれる。自身も、先輩や後輩とのコミュニケーションや、大きな声のあいさつを日々大切にし、プレーだけでなく人間性を高めることも重視する。プロハンドボール選手が将来の目標。「全国の人に応援してもらえる選手になりたい」と技と心を磨く。



## 努力が結果に つながる喜び

米子南高校 (2年) 高野 華菜子 さん



「やってみようかな」と、気軽な気持ちで入部したボート部。「頑張ったぶんだけ力がつく」。そんな喜びを感じながら、インターハイ出場を目指して練習に励む。

### 日々の練習で心身の強さ養う

全国高等学校選抜ローイング大会中国地区予選のダブルスカルで2位に入賞した。1位との差は3秒。喜びよりも悔しさが強かった。競技を始めた頃には見えなかった全国の舞台が視野に入り、インターハイ出場が目標になった。

日々の練習では、水上でのトレーニングのほか、エルゴメーターやランニングなどで体力向上に努める。「奇跡が起こりにくい」と言われる競技だからこそ、良い成績を出せ

たときの達成感は大い。レース中盤から終盤にかけての苦しさも、自分の動きに集中しつつ、声をかけ合って漕ぎ切る力を身に付けた。

1年生の頃は思うようにタイムが伸びず、悩む日々が続いた。前に進めたのは、家族や周囲の温かいサポートがあったから。感謝の思いとともに「誰かがつらいときに、声をかけてあげられる人でありたい」と心に刻んでいる。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 精神と肉体を しっかり磨く

境港総合技術高校 (2年) 長尾 蓮斗 さん



けがをきっかけに始めたボクシング。リハビリと厳しい練習を重ね、インターハイに出場する。「強い精神力が身に付いた」と実感し、次のインターハイで優勝を目指す。



### 厳しい練習の積み重ねが結実

中学では野球をしていたが、3年の体育で左大腿骨を骨折する大けが。「このままチームスポーツを続けていても、皆に迷惑をかける」と野球を断念した。父親がボクシングジムを経営していたこともあり、「しっかり精神や肉体を磨きたい」と高校では個人競技のボクシング部に入った。ただ、高校1年の9月までは松葉杖生活で、左足はやせ細りリハビリからスタートした。

ボクシング強化校の厳しい練習に耐え、部活以外にも父親からパンチやガード、試合運びなどを学ぶ。自分自身を追い込むハードで休みもない練習の積み重ねが実を結び、2年の5月にインターハイに出場した。高校の海洋科の授業では、37日間の海上実習を問題なくこなし、強い精神力が身に付いたと実感する。「3年のインターハイでは優勝を目指して結果を残したい」と意気込む。

## 目指せ！ 中国大会出場

米子工業高校 (2年) 遠藤 祥吾 さん



昨年、県新人戦で団体ベスト4に入り、チームの勝利にも貢献したが、「もう一步上を狙いたかった」と悔しさが残った。高校最後の今年、仲間と共に団体で中国大会出場を目指す。



### 必ず勝つ絶対的な選手に

三つ上の姉がスポーツ少年団でバドミントンをしていた影響で、自身も小学4年からバドミントンを始めた。中学の部活動で憧れていた先輩のいる米子工高のバドミントン部に入部し、日々練習に励んでいる。

男子部員は25人。ライバルは多いが、練習ではアドバイスし合いながら切磋琢磨し、オフは和気あいあいとしたメリハリのあるチームだ。その中でムードメーカーとして、ま

たエースとしてチームを引っ張る。バドミントンの魅力は「相手との駆け引き」。フェイントなどで相手を前後左右に動かし、その隙を狙って攻撃する。ダブルス2試合、シングルス3試合の計5試合中、先に3勝した方が勝ちとなる団体戦で「必ず1勝は自分が取る、絶対的立場になりたい」と闘志を燃やす。練習に加えて筋トレや素振りを自主的に行い、レベルアップを図る。





## 心を一つに、最高のダンスを!

米子北高校 (2年) 戸田 有紀さん



米子北高・総合エンタメ部ダンスチームの部長を務める。部員8人の団結力が強くなった今、「みんなの心を一つにして最高のパフォーマンスをしたい」と目を輝かせる。

▲動画はコチラ

の役割は「みんなが話しやすい雰囲気になるように一人一人をつなげること」。常に仲間への声かけを忘れない。

昨年12月には他校のダンスフェスに友情出演するため、皆でロックダンスに挑戦。動画を見ながら意見を出し合い、自分たちでアレンジしていく中で、さらに絆を深めた。春の部活動紹介ではダンスの魅力伝え、多くの新入生の入部につなげたいと考えている。

### 一人一人をつなぐ役割心がける

小学生の頃にチアダンスに親しみ、中学校の体育祭ではダンス係として下級生を指導。みんなの動きがそろったときの達成感が心に残った。高校の部活動紹介で見た先輩たちのダンスに魅了され、ダンス部に入部。がいな祭や文化祭などを経験するたびに仲間との団結力が強まった。

部内のモチベーションが上がらない時期もあったが、話し合いの場を設け「ちゃんとやろう!」と再確認した。部長



## 多くの活動を通して成長

日野高校 (2年) 和田 樹月さん

「多くの人たちと交流する中で、コミュニケーション能力を養いたい」。寮生活を送りながら地域イベントなどさまざまな活動に積極的に参加し、自分自身を成長させている。

### 高校での経験を将来の糧に

千葉県我孫子市の出身。親元を離れて寮生活をしたと、全国から生徒募集している日野高を選んだ。「生徒数が少ないので自分が出せ、地域との交流の機会が多いのも魅力」と話す。

一昨年、同じ寮生と地域づくりイベントに参加したのを機に、ボランティアサークル「みらいず」を結成。2カ月に1度、イベントで名古屋のB級グルメ「たません」を販売し、人気を呼ぶ。また高齢者向けのスマホ教室を開き、LINEアプリを

使った写真や文字の送信方法を指導して、高齢者に喜ばれた。

音楽部にも所属し、合唱でコンクールなどに参加。県内の高校生で構成する合同合唱団では、全国高総文祭にも出場した。生徒会副会長も務め、充実した高校生活を送る。「高校で培ったコミュニケーション能力は今後も生かせる」。たくさんの経験を将来に生かすつもりだ。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## インターハイ目標に稽古に励む

米子北斗高校 (2年) 足立 恵一さん

剣道を始めて10年。今では「生活の一部」と話す通り、常に頭の中には剣道がある。これまでの努力の成果を発揮し、小、中学校に続く全国の舞台・インターハイ出場を目指す。



### 恵まれた環境に感謝し飛躍

剣道の魅力は、きつい稽古の後に爽快感を得られることだ。小学2年で競技を始めてからは剣道一筋で、剣道とともに成長してきた。剣道のおかげで、礼儀や粘り強さも身に付いたと自負している。

現在、剣道部の男子部員は4人と少ないが、中学から共に汗を流してきた仲間との絆は強く、楽しみながら稽古している。人数が少ないことでプレッシャーを感じることも

あるが、「このメンバーと共に団場で、そして個人でもインターハイに出場したい」と目標を掲げ、部活での稽古はもちろん、素振りや筋トレなど自主練にも熱心に取り組む。

部活がオフのときは知り合いのいる練習場にも足を運び、腕を磨く。「指導してくれる人たちがいるおかげで、剣道を続けることができています」。恵まれた環境に感謝を忘れず、さらなる飛躍を誓う。

## 「作る楽しさ」を改めて実感

米子高専 (4年) 浦林 丈人さん

昨年「全国高等専門学校デザインコンペティション」(通称デザコン)に出場した。設計を担当し、仲間と試行錯誤しながら「紙の橋」を製作。改めて「作ること」の面白さを実感した。



### 全国の学生と競い合い成長

デザコンの構造デザイン部門では、ケント紙と接着剤のみで橋梁を製作し、耐荷重や軽量性、デザイン性を競った。

チョウが羽を広げた優雅な姿を表現した「鳳蝶(あげはちょう)」は、4つの部材を組み立てる難易度の高い作品。橋の中央の接合には帯状の部材を使い、荷重時の橋の圧縮や広がりを抑えた。また重さで部材が変形(座屈)する長さを計算し、製作に生かした。



紙の裁断、製作、実験を何度も繰り返し、本番直前まで仲間と試行錯誤。計算上は重さに耐えても作り方で誤差が出るため、製作の精度も要した。本番は30分に耐えることができず悔しさが残った一方で、精いっぱいやり切った充実感もあった。

全国と同じ分野に興味を持つ学生と競い合えたのは大きな経験だ。「将来は構造系の仕事に就きたい」。これからも好きな分野にまい進する。





# 原点は「走る楽しさ」

米子松蔭高校 (2年) 川上 拓海<sup>かわかみ たくみ</sup>さん



本格的に陸上を始めたのは高校から。春はトラック、秋冬は駅伝と、走ることの楽しさを味わいながら、全力で駆ける。チームで目指すのは、来シーズンの都大路だ。

## 部活も勉強も自ら考え行動

「走ることが楽しい」という素直な気持ちからスタートし、レースを通じてランナーとしての経験を積んできた。

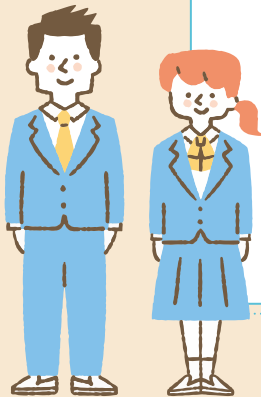
鳥取県高校新人大会では、3千<sup>メートル</sup>障害で優勝。駅伝では、全国高校駅伝出場を目標に、仲間と練習に励む。陸上の魅力は、個人競技でありながら、ライバルと並んで走る点だと感じている。前半は軽やかに走り、後半でいかに勝負をかけるか。駆け引きの要素もあるが、最終的には「勝ち

たい」という強い気持ちが結果につながると信じている。

陸上部の練習は「自分で気付き、動く」ことを重視し、フリージョグが中心。勉強も休憩時間を活用すると自ら決め、成績上位を維持する。根底にあるのは、家族や周囲への感謝の思い。「山陰のスポーツを盛り上げたい」と将来は理学療法士として「アスリートを支えたい」と思い描いている。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く  
高校生・高専生  
インタビュー